

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和4年4月号



【伊都振興局】 4/20 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】  
～農業技術講習会果樹コース（カキの摘蕾講習会）の開催～

和歌山県農林水産部経営支援課  
(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
2. 令和4年度和海地方農業士会総会を開催	
3. 種ショウガ栽培講習会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3-4</b>
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」まん延防止に伴う巡回調査	
2. 紀の川市4Hクラブがオンライン勉強会を開催！	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5-6</b>
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（カキの摘蕾講習会）の開催～	
2. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催	
3. 令和4年度伊都地方農業士連絡協議会が総会及び研修会を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7-9</b>
1. ウメ「南高」の摘心処理講習会を開催	
2. 令和4年度有田地方農業士協議会総会開催	
3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催	
4. 令和4年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>10-11</b>
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～	
2. 令和4年度「農トレ！ひだか」～第1回セミナー開催～	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>12</b>
1. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会および研修会を開催	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>13</b>
1. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>14</b>
1. 令和4年度入学式14人の学生生活が始まる	
2. 1年生が県内の試験研究機関など（9カ所）で研修	

## I 海草振興局

### 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

海南市下津町のみかん農家で、「匠の技 伝道師」の橋詰孝氏による、本年度 1 回目の技術研修を 4 月 25 日に開催し、新規就農者やわかやま農業MBA塾修了生ら 18 名が受講した。

研修会は橋詰氏の園地で行い、匠の技により栽培する温州みかんの樹を前に説明を受けた。開花時期にあわせて開催したこともあって着花の状況がよく分かり、参加者は自身の園地とどう違うのかを考えながら質問を行っていた。

また、近くに畑をもつ参加者の園地も見ることになり、匠の園地と比較することで活発な意見交換の場となって、より充実した研修会になった。

今後も、作業のポイントとなる時期を選び研修会を計画し、若手農業者等へ匠の技術が伝承されるよう取り組んでいく。



開花の状況を説明する匠



普及指導員にも熱心に質問

### 2. 令和 4 年度和海地方農業士会総会を開催

4 月 15 日、海南市農村婦人の家において、和海地方農業士会（会長：河嶋保儀氏（会員 67 名））が令和 4 年度の総会を開催した。新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、出席者は役員、理事の 13 名に限定した開催となった。

総会では活動経過、活動計画、役員改選について審議され、新会長に松本弥氏が承認されるなどすべての議案が承認された。この後の研修会では県経営支援課の林主任より「和歌山県のスマート農業の取り組みについて」、海草振興局の萩平普及指導員より「クビアカツヤカミキリ対策について」と題した講演があり、新たな農業へのアプローチや産地への脅威に関する情報を共有することができた。出席者からは、山林での大木の枯れ込みの原因などクビアカツヤカミキリとの関連性について質問が寄せられ関心の高さが伺えた。地域が一体と

なって産地を守るために、身近なバラ科植物（サクラ、スモモ、ウメ、モモなど）での異変を見かけたら情報提供いただくよう協力を呼び掛けた。



総会



講演（スマート農業）

### 3. 種ショウガ栽培講習会を開催

4月25日、JAわかやまグリーンステーションにて、和歌山市種生姜生産促進協議会（構成：和歌山市、JAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、農業水産振興課）が種ショウガ生産者を対象に栽培講習会を開催し5名が受講した。

講習会では、4月下旬から5月上旬の定植作業に当たって、良い種芋の選別基準や植え付け方法、その後の除草や防除のポイントなどを説明した。今年度は、8名の方が56aで栽培に取り組むこととしているが、優良な種ショウガの生産は、肥培管理、水分管理、病害虫の防除など、栽培管理が難しいため、引き続き11月の収穫まで定期的に栽培講習会の開催及び園地巡回を実施することにより安定生産を目指す。



栽培管理法の説明

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」まん延防止に伴う巡回調査

モモ・ウメ・スモモなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」は4月になると幼虫の活動が始まり、ミンチ状のフラスが排出される。そこで、紀の里農業協同組合、JAグループ和歌山農業振興センター、農業共済組合北部支所、紀の川市、岩出市、農作物病害虫防除所、農業試験場、果樹試験場かき・もも研究所、農業水産振興課で構成される那賀地方病害虫防除対策協議会（会長：下田和敬二氏）では4月25日及び27日に園地巡回調査を行った。

調査に先立ち、参加者で調査エリアと被害カ所を見分けるポイントを確認した後、延べ21名が9班体制で187園地のモモ3995本、スモモ408本、ウメ733本を調査した。その結果、3園にてモモ3本、ウメ1本でクビアカツヤカミキリの被害が確認され、いずれも掘り取りにより幼虫を捕殺した。

昨年よりも増加傾向であるが、巡回調査や生産者からの通報により早期発見・早期捕殺が実行できている。今後もさらなる「警戒の目」を増員するため、5月には紀の里農業協同組合員あて、6月には紀の川市・岩出市の全世帯向けにクビアカツヤカミキリ啓発チラシを配布し、警戒に当たる。



現地調査の様子

### 2. 紀の川市4Hクラブがオンライン勉強会を開催！

4月19日、紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人氏）では、オンライン勉強会を開催し、10名が参加した。

当クラブでは現在5名が環境制御に取り組んでおり、今回はその中から吉見氏と宮村氏の2名が発表を行った。

吉見氏は、センサーを使ってハウス内の温湿度やCO2濃度をモニタリングし、施設トマトの品質・収量の向上に取り組んでいる。これまで、センサーと連動させたミストで飽差管理を実施してきたが、温湿度センサーの数値だけでは細かな管理が難しいと感じ、現在は積極的なかん水を行うことで、蒸散水蒸気によって気孔を閉じさせない管理をし、ミストに頼らず乾燥に強い作物を育てるように心がけている。

宮村氏は、3月に露地モモでモニタリング機器を導入した。導入直後の感想として、「データは取れてもすぐには活用できない。データの蓄積と分析、日々の天候や樹体の観察と記録、植物生理の知識習得など、機器を使いこなすには人的な活動が不可欠」と語っていた。

2人の発表後は、長年環境制御に取り組んできた西氏から観測データの見方についての説明、他会員とのデータ比較に基づく管理方法の提案に加え、環境制御に取り組む際には①同一条件で長期間データを取り ②シーズン終わりに見直す ③結果が良ければその条件の復元を試みる ことが大切との話があった。

これから環境制御に取り組んでいきたいという会員もいることから、本会では今年度の活動として会員のは場見学なども行いながら、環境制御に関する知識を深めていく予定である。

農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる勉強会の開催を今後も支援する。



資料を用いて取組紹介



観測データの見方について説明

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】

##### ～農業技術講習会果樹コース（カキの摘蕾講習会）の開催～

4月20日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、カキの栽培技術をテーマにした講習会を開催し、16名が受講した。

今回は、主に春の開花期までの作業として、カキの摘蕾について講習会を実施した。

はじめに、森口普及指導員から、カキの歴史、主要品種の導入、生育ステージにあった年間の栽培管理、結果習性について説明があり、続いてこの時期の主な管理作業として摘蕾や授粉の目的、方法の概要についての講義を行った。また、春から夏中心の主要病害虫の防除対策および農作業安全についても説明した。その後、藤田普及協力員のカキ園に移動し、摘蕾の実演を行いながらポイントの説明を行い、受講生全員で「刀根早生」の摘蕾に取り組んだ。受講者からは「カキの歴史や摘蕾など勉強になった。施肥技術についても学びたい。」などの意見があった。

当課では、今後もカキの基礎技術を学びたい生産者に対し研修を定期的に企画し、技術指導を行っていく。



座学の様子



摘蕾の現地研修の様子

#### 2. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催

4月14日、農業水産振興課では、担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜コース）第1回（全3回）を開催し、16名が受講した。

はじめに、久保普及指導員から病害虫防除の基礎知識として、農薬取締法の遵守および農薬の防除効果等から使用する農薬の選び方や保管、散布方法等の取り扱いについて説明があり、その後、トマト、ナス、カボチャ、スイートコーンなど夏秋野菜の栽培や病害虫防除等のポイントについての講義を行った。また、間佐古普及指導員から農作業安全として、体調管理や農業機械を取り扱う際の注意点について説明があった。

受講者からは「説明が非常にわかりやすかった。他の品目についても講習してほしい。」などの声があった。

当課では、今後も講習会を開催し、担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。



開講式の様子



夏秋野菜の栽培方法の説明

### 3. 令和4年度伊都地方農業士連絡協議会が総会及び研修会を開催

4月14日、橋本市民会館において、伊都地方農業士連絡協議会（会長：辻重光氏）が総会及び研修会を開催し、会員及び関係者42名が出席した。

総会では、退任された農業士及び新規認定者の紹介があり、その後、令和3年度事業報告及び収支決算報告、令和4年度事業計画（案）及び収支予算（案）が原案どおり承認された。

研修会では、株式会社 八旗農園 代表取締役 高平昌英氏（紀の川市地域農業士）、専務取締役 中浴泉氏（紀の川市指導農業士）の2人から、「6次産業の取組み丹精込めた果物に付加価値を」と題して講演があり、農園のあゆみや農園情報、これまでの取り組みについて説明があった。2人はもともと農家ではなく、他業種からの農業参入者であり、他業種での経験を生かした農業生産と6次産業化に取り組んでいる。八旗農園の桃ピューレの製造販売や緑キウイピューレの特徴、商品開発の意義など、日頃なかなか聞くことのできない貴重なご講演に、出席した農業士らは熱心に聞き入り、活発な意見交換を行った。

当課では、今後も関係機関と連携して農業士会活動の支援を行っていくとともに、今回のご講演を契機に、当地域においてもより一層の6次産業化の取組が広がり、農業経営の発展につながるのではないかと期待している。



開会の会長挨拶



研修会「6次産業の取組み丹精込めた果物に付加価値を」

## IV 有田振興局

### 1. ウメ「南高」の摘心処理講習会を開催

4月19日、有田川町中井原のウメ園において、JAありだウメ部会（部会長：西建一氏）が農業水産振興課協力の下、役員及びJAありだ営農指導員20名を対象に新梢の摘心処理の講習会を実施した。

摘心処理は4～5月に、約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心することで結果枝の増加が図られ増収効果が期待できる。また、冬季のせん定作業が省力できる技術である。

講習会では、城村普及指導員が講師を務め、電動バリカンを用いて摘心の実演をしながら説明した。

今年で摘心処理は2年目であり、昨年に摘心した処理枝にはたくさん着果しており収量増効果が感じられた。JAありだウメ部会員の中には電動バリカンを購入し今年度より摘心処理を実践する会員もおり、地域に技術が浸透しつつある。

当課では今後もJAありだと連携して、ウメの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進に向けて取り組んでいく。



電動バリカンによる摘心の実演

### 2. 令和4年度有田地方農業士協議会総会開催

4月14日、有田振興局において、有田地方農業士協議会が総会を開催した。新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため出席者は、各市町の農業士21名に限定した開催となった。

当日は、令和3年度事業経過報告と収支決算報告、令和4年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認され、森田会長からはコロナによるここ2年間の活動停滞の現状を踏まえ4年度への意気込みを訴える総会となった。

研修会では、試験場から借りた3種類のアシストスーツの試着・試用を行った。これらのアシストスーツは負担軽減効果が期待できることから会員や地域農業者に広く周知を図り、スマート農業への理解が深まるきっかけとなるよう地域農業者に広く提案していく。



開会時の会長挨拶



アシストスーツの試着風景

### 3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

管内の女性農業者と就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、4月20日に果樹試験場で開催した。（参加者10名）

研修会では、果樹試験場栽培部 井口主査研究員から「カンキツの新品種について」の講義、また、栽培部中部部長から「カンキツの接ぎ木について」の講義を受けた後、実習を行った。

出席者のほとんどが接ぎ木の経験があまりなく、穂木を削る作業にも時間がかかったが、全員が接ぎ木の作業を終えることができた。

出席者からは、難しかったが実際に接ぎ木をすることができて良かった。来年も開催して欲しいなどの意見が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も有田農業女子プロジェクト・アグリビギナーの研修会及び意見交換会開催を通じ、有田地域の農業者の育成を図っていく。



「カンキツの新品種」の紹介



「カンキツの接ぎ木」の説明・実習



#### 4. 令和4年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催

4月26日、有田振興局において、有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長：大谷英士朗氏）の令和4年度総代会が開催され、各市町から4Hクラブ員18名が出席した。

総代会では、令和3年度事業経過報告と収支決算報告、令和4年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田川町4Hクラブの亀井勇希氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、クラブ員が農業に関するペーパーテストに挑戦し、日頃の活動で身に着けた知識を競い合った。

採点の結果、団体の部では有田川町4Hクラブ、個人の部では有田川町4Hクラブの谷端航平氏が1位に輝いた。

総代会・技術交換大会は新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催であった。本年度の事業計画案としてスポーツ交流会や研修会などが計画されており、農業水産振興課では、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しつつ今後も活動支援を行っていく。



総代会



技術交換大会で知識を競う

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

#### ～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州等と連携し、ウメ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

カットバック処理は、樹高や着果位置を下げることにより、青梅収穫等の作業が容易となる一方、主枝を切り戻した分、一時的に結果枝が減少する。そこで、初夏に新梢の摘心処理（4月、5月の2回）を行い、本来は徒長枝となる枝を結果枝化した上で、秋冬期にカットバック処理を実施することにより、収量を確保しながら、冬季のせん定作業の省力化も図ることができる。

摘心処理（1次）の現地研修会を、4月22日に日高川町松瀬地区（参加者10名）、4月27日にみなべ町西本庄地区（参加者4名）において開催し、参加した梅生産者に充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を指導した。

参加者からは、「いつもの作業にひと手間加えるだけでこれほど着果が増えるなら価値がある」、「自園でも試してみたい」といった意見があった。

今後は、摘心処理（2次）講習会を5月中下旬に、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心処理の体験及び実演（左：日高川町松瀬、右：みなべ町西本庄）

## 2. 令和4年度「農トレ！ひだか」 ～第1回セミナー開催～

4月21日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡有輝氏）と農業水産振興課の共催により、管内の若手農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第1回セミナーを印南町公民館大ホールで開催した。日高地方4Hクラブ員14名および一般参加者3名の計17名が参加した。

今回は、安心安全な農業人生をおくるための知識について学ぶことを目的とし、（一社）和歌山県農業会議 農業者年金総合指導員の向井元治氏、紀州農業協同組合 営農企画課長の上道博之氏、農業水産振興課の松本大普及指導員から講義が行われた。

まず、向井氏による講演「農業者年金について（安心して豊かな老後をサポート）」では、老後の生活資金や公的年金の種類、仕組み、各年金の比較について、さらに農業者年金の必要性について話を聞いた。次に、松本普及指導員から、農作業安全の基礎として、農作業事故の事例や安全に農作業を行うためのポイントについて話を聞いた。続けて上道氏による「農業者のための労災保険について」の講演があり、労働保険（労災保険・雇用保険）の概要と加入方法や加入することの効果について説明を受けた。

参加者は熱心に聴講し、セミナー終了後には「老後や事故、労災等への備えについて改めて考えるきっかけになった」、「年金の大切さや農作業事故防止の心がけの重要性がよく分かった」等の感想が聞かれた。

今後は、8月頃に第2回目、11～2月頃に第3回目の「農トレ！ひだか」の開催を予定している。



松本普及指導員による農作業安全の説明



上道氏による労災保険についての講演

## VI 西牟婁振興局

### 1. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会および研修会を開催

4月15日、西牟婁振興局において、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：谷本喜久氏）が総会及び研修会を開催し、会員や行政関係者等48名が出席した。

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に配慮し、役員や理事（支部長）を中心に、出席者を絞っての実施となった。

総会では、令和3年度事業報告、収支決算報告及び令和4年度事業計画(案)、収支予算(案)ともに原案のとおり承認された。また3月末に定年となった指導農業士2名から退任の挨拶があった。

研修会では、うめ研究所 菱池主任研究員、綱木研究員から「ウメの葉縁えそ病（茶がす症）について」及び「開花前の高温がウメの花器および着果に及ぼす影響」をテーマに研究成果の報告があり、安定生産に関する活発な質疑応答がなされた。

農業水産振興課では、コロナ禍における農業士会の活動内容を検討し、支援していく。



農業士会総会（谷本会長挨拶）



退任の挨拶（指導農業士）



研修会（うめ研究所）

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催

4月26日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保氏）、J Aみくまの及び農業水産振興課は、新宮市熊野川町の水田（10a）で近畿大学附属新宮中学校1年生（45人）を対象に田植え体験を開催した。これは、生徒たちが農作業体験を通じて農業や食物に関心を持ち、これらの大切さを知ることが目的としたもので、平成29年から実施している。

会長挨拶の後、当課岩橋普及指導員が和歌山県の農業や水稻の栽培について説明を行った。続いてJ A職員や協議会メンバーらが苗の植え方を指導した。生徒全員が横一列に並び1人4条程度を植えた。

雨の中、生徒は、「カエルがいる」とおそるおそる水田に入っていたが、最後は、楽しく田植えをおこない、農業や食物に関心を持ってもらうことができた。

8月下旬には、今回田植えした水田で収穫体験を行い、収穫した米は同校の文化祭で「近中米」として販売する予定である。



水稻栽培の説明



田植え時の状況

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 令和4年度入学式14人の学生生活が始まる

4月7日に入学式を行い、園芸学科11人、アグリビジネス学科3人の学生生活が始まった。式辞で小畑校長は「これから二年間、本校での様々な学びや学生生活を通じて、農業に関する専門知識や技術だけでなく、社会人として求められる能力を身に付け、本県農業を担うリーダーに成長していただきたい。自分自身の目標を大きく持って攻めの姿勢で頑張ってください」と新入生を激励した。

また、新入生代表の井上創太さんが「農業の基礎知識や栽培技術、経営能力の習得などに努力したい。新たに出会った仲間とお互い助け合い切磋琢磨しながら、友情を深めていきたい。全力で学生生活を送ることを誓います」と述べた。

学生は、今後、講義や実習に加え、先進農家や試験場等での研修を行っていく。



宣誓する新入生代表

### 2. 1年生が県内の試験研究機関など（9カ所）で研修

1年生（14名）は、県内における農林業に関する最新の研究内容や事業内容について学ぶため、4月14日から15日にかけて、県内農林業関係の試験研究機関等（かき・もも研究所、農業試験場、畜産試験場、林業試験場、農林大学校林業研修部、うめ研究所、暖地園芸センター、就農支援センター、果樹試験場）を訪問した。

研修先では、現在の取り組み内容について説明を受け、その後、ほ場や施設の見学を行った。学生らは県内状況や県オリジナル品種の育成等について熱心に聴講していた。

まだ入学して1週間余りだが、2日間共に過ごすことで、相互の親睦や連帯感も深まり、有意義な研修となった。



研究機関職員から説明を受ける学生

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489